

「高山市民の森 森林教室」実施報告書

令和元年11月10日

実施日時： 令和元年11月10日（日） 10時～15時

実施題目： 森の散策及びバウムクーヘン作り

参加講師： 主担当； チーフ 小嶋博、 サブ 早川和男
アシスト会員； 越智寿美子、高橋健三、大石正教、朝比奈恵美子、
青野ダイチ、中川昌昭、佐野文彦、望月靖郎

参加者： 14家族49名（内訳、 大人26名、子ども23名）

イベント概要：

午前、森の散策

比較的参加者が多かったことや午後のバウムクーヘン作りの準備作業の為、各班をインストラクター1名で対応し、6班編成としました。1歳児や年配者を含むグループもありましたが、好天に恵まれたこともあり頂上付近まで登りました。富士山は言うまでもなく静岡市の中心街から駿河湾や伊豆半島まで望める素晴らしい眺望に恵まれました。班によっては、双眼鏡を奪い合うようにして眺めていました。頂上付近では、カモシカが出迎えてくれて、子どもさんによってはしり込みする子がいたり、その糞の中でうごめくセンチコガネを素手で捕まえようとする子もいたりと様々な反応でしたが、それぞれにいい体験になったようです。また、クロモジやクサギやサンショウの香りをかいだり、クマノミズキの葉の白い道管を引き出して遊んだり、ウラジロで飛行機遊びをしたりと植物にも触れる機会にもなりました。残念ながら、どんぐりを拾いたかった家族には、クヌギやコナラなどが今年は不作で期待に応えられませんでした。

午後、バウムクーヘン作り（午前と若干メンバーの入れ替えは有りましたが、ほぼ同じ6班編成）

スタッフが午前中から昼食時にかけてバウムクーヘン作りの準備作業をし、参加者が昼食後すぐバウムクーヘン作りができるよう下こしらえをしました。参加者には、鍋やボールに生地となる小麦粉に卵・バター・牛乳を入れてかき混ぜる作業から始めてもらいました。一方、予め火を起こしてあった縦に切ったドラム缶に、内側の節を抜いた約1.5mの長さの竹を載せ、その竹に混ぜて出来上がったバウムクーヘンの生地を、塗っては火にあぶる作業を何回も繰り返しました。表面が薄茶色になったところで火から離して、両サイドを切り落とした年輪状の中央部分を竹から外して完成させました。スタッフが持参してくれたさつま芋も一緒に焼きました。参加者の親も子どもも熱心に協力して作りました。出来上がったバウムクーヘンを手にして、多くの家族が写真を撮っていました。室内に準備した紅茶やクロモジ茶などを飲みながらバウムクーヘンを囲んで、どの参加者も満面の笑みを浮かべていました。中には家に帰ってからもう一度作りたいからと、レシピを受け取り、余った竹を持ち帰る参加者もありました。

（早川 記）

森の散策とバウムクーヘン作りの光景

頂上付近の展望台の下でくつろぐ



静岡の町や有度山の先に駿河湾と伊豆半島が微かに見える



2階ベランダにもバウムクーヘンの香りとバウムクーヘン作りの熱気が伝わって来るかのよう



参加者がそれぞれに材料をこねて生地作り



竹を回転してまんべんなく火が通るように

